

みどりの Gift

[ギフト]

No. 71 緑の栄光
March 2024

FEELINGS OF FOREST



原画：北海道旭川農業高等学校3年 齊藤 幸音さん（令和5年度緑化活動啓発作品コンクール 高等学校の部最優秀賞・北海道森林組合連合会会長賞）

さあ、北海道の未来を植えよう。

道民ひとり1本植樹・育樹運動

ごあいさつ

緑の募金：道民ひとり1本植樹・育樹運動と共に歩む、森林と未来への寄与

公益社団法人 北海道森と緑の会
理事長

山谷 吉宏



令和6年は、能登半島における大地震、そして、その災害支援のために飛び立とうとしていた海上保安庁機と日航機の大事故など、悲劇的な幕開けとなりました。

東日本大震災から13年、熊本地震から8年、胆振東部地震から6年と、いずれも復興途上で、またこのような大災害が発生し、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

このように災害が頻発すると、人間一人の力の無力さを痛感しますが、これまでも、個人の持っている知見や経験をそれぞれの地域や組織で活かし、協力して助け合い、力強く復興を遂げておりますので、一人ひとりができることを、一つずつ積み重ねていく事が重要だと感じております。

このような中で、昨年度内では、平成30年に制定された「北海道植樹の日・育樹の日条例」が5周年を迎えたことから、新たなステップとして、道庁により「道民ひとり1本植樹・育樹運動」が10月にスタートしました。

この新たな運動については、まさに道民皆様一人ひとりが、身近な場所で行える植樹や育樹活動を積み重ねていく取組だと思っております。

当会で取り組んでいる「緑の募金」運動は、「緑の募金」への寄附を呼びかけることにより、森林や木材、身近な緑環境の大切さを普及・啓発するとともに、集まった寄附金を基に、募金を集めていただいた市町村や協力団体が実施する

緑化事業の支援、緑化事業に取り組むボランティア団体への助成、全道の小・中・高等学校の児童・生徒によるポスター原画や標語を募集する緑化活動啓発作品コンクールの実施や優秀作品を活用したポスター・チラシ・カレンダーなどの作成・配布のほか、次代を担う子ども達を対象に、木や森との関わりを伝える「木育」活動として、様々なイベントにおいてワークショップを行う「木育ひろば」を出展するほか、幼稚園などに出向いて森の大切さを伝える「森の教室」や園児達の植樹体験などに取り組んでおります。

このようなことから「緑の募金」は、新たに始まった「道民ひとり1本植樹・育樹運動」を支える重要なアイテムであると考えており、当会としても、この新たな運動が広く浸透するよう、本年の特集記事として取り上げております。

森林は、伐採後も木材として使用している間は二酸化炭素を固定したままであり、今、地球の未来に向けて二酸化炭素の削減が急務となる中で、森林や木材に対する期待は、これまで以上に高まってきております。

北海道森と緑の会は、森や木、緑の大切さが道民の皆様に広く理解され、多くの方々が森林づくりに参加・協力して、豊かな森林を未来に引き継いでいくことができるよう、「緑の募金」運動を通じて、皆様とともに力を尽くしてまいります。

皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

巻頭によせて

こまおか緑の少年団-学びと冒険の自然体験

札幌市立駒岡小学校 校長
こまおか緑の少年団 代表

岩村 鋭介氏



「今日は学校林に行ける?」「川遊びはできるの?」休み時間になると、子どもたちからこのような声がたくさん聞かれます。

駒岡小学校はおよそ1haの学校林と、精進川で日常的に遊ぶことができる親水施設を備えた自然豊かな学校です。そのような環境の中、子どもたちは「こまおか緑の少年団」として自然から多くのことを学んでおります。

本校では、学校林を軸にした6年間をつなぐ特色ある教育活動を行っております。

まず、低学年では、学校林の生き物を飼育することで、実際の触れ合いを通じて学校林の自然に親しみ、興味をもてるようにします。

中学年では、自然で遊び、自然を調べる学習をしています。3年生は学校林の木や枝を使い秘密基地をつくるなど、学校林で思いっきり遊びます。そして4年生では子どもたちが学校林博士となって興味をもった動植物について調べます。

高学年では、学校林を維持・整備するための取組について

学び、伐採した木から子どもたちがつくった薪を様々な行事で利用する体験から、持続可能な学校林整備について意識し自ら主体的に関わっていくといったSDGsへとつながる学びに発展させていきます。さらにこれらの学習には、保護者・地域人材・外部団体も多く関わるなど、社会総がかりで子どもを育てる取組にもなっています。

これらの学びが認められ、令和4年度全国緑の少年団連盟みどりの奨励賞、前田一步園財団ジュニア自然環境賞、令和5年度北海道社会貢献賞、都市緑化機構屋上緑化部門 都市緑化機構会長賞を受賞いたしました。関係者の皆様には子どもたちの活動を支え、励ましていただきましたことに心より感謝申し上げます。

今後も子どもたちが自然に親しみ豊かな体験の中から「ふるさと札幌」「ふるさと駒岡」を大切にしようという思いをもち続けていくことができるよう力を尽くしてまいります。

CONTENTS

04 さあ、北海道の未来を植えよう。

道民ひとり1本植樹・育樹運動

08 移り変わる言葉と普遍の心

アーティスト/デザイナー 馬場 拓也

09 山を育てる仲間たち

#014 置戸町林業グループ

10 Green Report～緑化だより

北海道森と緑の会と一緒に緑化活動に励む元気で活発な団体や事業をご紹介します。

No.01 NPO法人 野付・エコ・ネットワーク / No.02 上札内緑の少年団

12 令和5年度 緑化活動啓発作品コンクール入賞者

12 令和5年度 北海道森と緑の会 活動報告

14 緑の募金インフォメーション

編集 株式会社アドバコム

Art Director 加藤大幸
二本柳燎

Writer 鶴見裕子(タオ)



さあ、 北海道の未来を 植えよう。

道民ひとり1本植樹・育樹運動

北海道には日本全体の森林の約2割があります。

この豊かな自然を未来に引き継いでいくため、

平成30年(2018年)に制定されたのが

「北海道植樹の日・育樹の日条例」です。

条例制定から5年の節目を迎えたことを契機に、

「道民ひとり1本植樹・育樹運動」がスタートしました。

令和6年度から令和10年度までの5年間で500万本の植樹・育樹を目指します。

人口約520万人の北海道で、一人ひとりが5年間で

一度アクションを起こせば目標を達成することができます。

期間中に計画される多様な植樹・育樹イベントにぜひご参加ください。

あなたが手をかけた1本が北海道の未来を拓きます。



5月に植樹の日
10月に育樹の日

「北海道植樹の日・育樹の日 条例」は、道内の林業関係団体の要請を受け、道議会全会派による議員提案により全国に先駆けて制定されました。

条例では、5月第2土曜を北海道植樹の日、10月第3土曜を北海道育樹の日とし、5月・10月それぞれを植樹月間、育樹月間と定め、北海道は条

例の普及に取り組み、道民の皆様に植樹・育樹活動への協力を求めています。

しかし、コロナ禍が活動推進を大きく妨げました。33年ぶりの道内開催で入念に準備してきた令和2年の「第44回全国育樹祭」も1年延期となり、当日は初めてリモート参加と動画配信を取り入れるなど異例づくめの開催となりました。

北海道では道内の植樹祭な

どで植えられた本数を把握してはいますが、「残念ながらコロナ禍で植樹本数は伸び悩みました」と水産林務部森林環境局森林活用課の佐藤主査は話します。

条例が行動を後押し
機運を生かして加速

コロナ禍の影響はあったものの、北海道植樹の日・育樹の日制定の効果は少しずつ現れてきました。「道内各地で北海道植樹の日・育樹の日をPRするイベントが開催されるなど、だんだんと認知されるようになってきたと思います」と佐藤主査。特にCO2削減で社会貢献を考える企業からの相談が増え、「2050年までにゼロカーボン実現」という北海道の目標に賛同し、森林所有者と森づくりの協定を結ぶケースも少しずつ増加しているといいます。

この機運を活かし、昨年10月に条例提案に尽力いただいた道議会をはじめ関係機関の協力を仰ぎ、鈴木直道知事の宣言のもと、新たな取組「道民ひとり1本植樹・育樹運動」

道民ひとり1本植樹・育樹運動 キャッチフレーズ決定!

最優秀賞

さあ、北海道の未来を植えよう。

長谷川 千夏さん ●札幌市

優秀賞

森になる その1本がプロローグ 福井 洋明さん ●静岡県

守ろう森を、育てよう未来を。 池浦 丈さん ●留萌市

がスタート。第1弾として、昨年11月に運動で使用するキャッチフレーズを募集しました。応募総数は944点。道内外の幅広い世代から応募がありました。選考に当たった関係者は、募集期間約1カ月でこれだけの数が集まったこと

を喜び、応募多数にもかかわらず作品に重複がひとつもなかったことに驚いたといいます。選考結果は1月に発表され、最優秀賞と優秀賞の受賞者には賞状と副賞が贈られました。

運動推進に多彩な企画
木育で子どもたちにも

北海道ではこれまでも、北海道植樹祭の開催をはじめ、漁協女性部による「お魚殖やす植樹運動」や森林ボランティア団体の活動への支援、「ほっかいどう企業の森林づくり」参画企業の拡大などを行ってきましたが、今後も引き続き、多彩に森づくりに参加できる機会を道民に提供していく予定です。

令和6年度からは新たに、「道民ひとり1本植樹・育樹運動」を普及していくほか、



教育・保育機関が実施する環境教育と植樹・育樹活動をサポート。森林づくりにかかる知識習得と体験を一体的に実施することで、「子どもたちの森林づくりに対する理解を促進するとともに、植樹・育樹活動の機会を提供していきたい」と佐藤主査は意図を説明します。

目標の500万本の達成に向けては、「北海道が主催するもの以外にも、市町村をはじめ、地域で活動する森林ボランティア団体や緑化活動団体、企業などが行うものなどさまざまな活動がありますので、お近くの活動にご参加いただき、ひとり1本にご協力



をお願いします」と佐藤主査は呼びかけます。

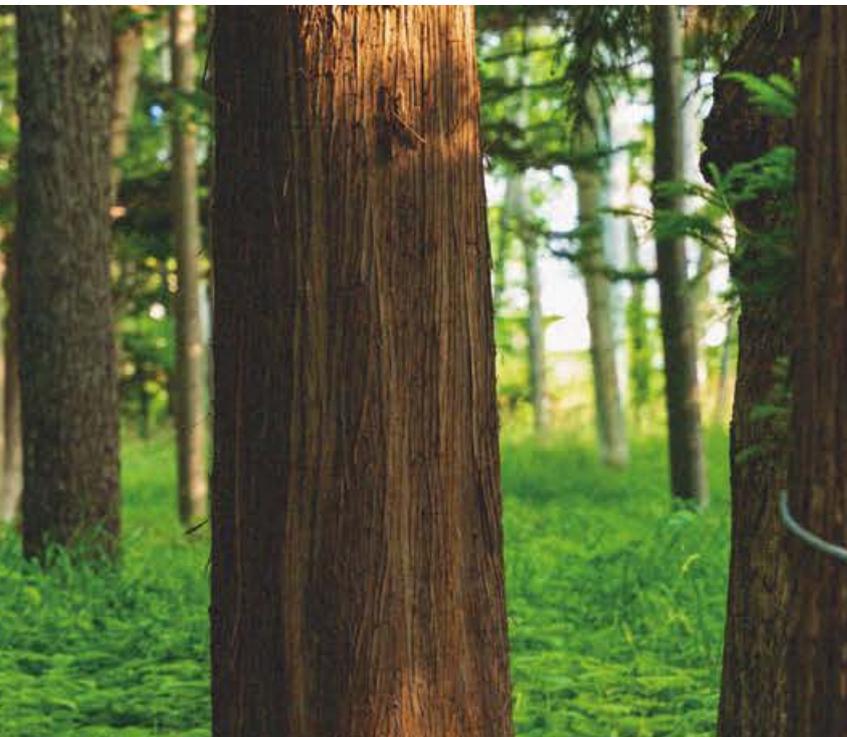
北海道水産林務部森林環境局森林活用課のホームページには、道内の森林づくりや木育イベントの年間予定を独自にまとめたイベントカレンダーが掲載されているので、ぜひ参考にしてください（4月更新で新年度分を掲載）。

ゼロカーボン北海道といった大きな目標の実現も、最初に踏み出す第一歩は小さな苗木の植樹・育樹。あなたが植える1本が目標達成への第一歩になります。一人ひとりの手で北海道の森を守っていきましょう。



北海道の森づくりの
シンボルキャラクター
「芽森（めもりー）」

平成19年(2007年)に北海道で開催された第58回全国植樹祭を契機に誕生。「北」の文字と苗木がモチーフ





手ぶらで植樹!

道民の森・神居尻地区で
6月・9月に毎日無料開催

事前予約は不要。思い立ったら吉日です!

苗木やスコップは用意されていて、
植樹方法の説明もあります。

お天気の良い日に動きやすい服装でいらしてください。

長靴や軍手があると作業しやすいです。

天候によっては体験できない場合がありますので、
念のためお電話で確認されると安心です。



問い合わせ

- 水産林務部森林環境局森林活用課 Tel.011-204-5516
- 道民の森 神居尻地区総合案内所 Tel.0133-28-2431

植樹場所

道民の森・神居尻地区 水源の森Cゾーン(当別町)

【時間】9:30~16:30

※神居尻地区総合案内所で受付をしてください。

※学校でのご利用の場合は事前連絡が必要。

以下にお問い合わせください。

●道民の森管理事務所 Tel.0133-22-3911

植樹場所の位置情報を
Googleマップで
確認できます



移り変わる 言葉と 普遍の心

わたしは、令和5年度に北海道教育大学旭川校に着任し、デザイン研究室を主宰しています。日々研究室の学生と言葉を交わしながら、各々のデザイン感を大切に制作活動に励んでいます。

デザインという領域の特性でしょうか、企業や自治体、個人のクリエイターの皆さんと一緒に仕事をさせていただく機会が多くあります。内容は、木製玩具のような比較的小さな物から公共施設の空間、木育に関する題材・教材開発など、デザインする対象は、大小関係なく物理的なモノから教材まで様々です。

昨年話になりますが、株式会社ハルキ 鈴木正樹さん、木育マイスター 山本賢治さんと共に開発しました、全盲・弱視等問わず視覚に障がいのある方が、遊ぶことができるパズル[Uzukuri Puzzle]をリリースしました。多くの皆さんが、視覚情報がなくパズルができるわけがないと怪訝に思っていることでしょう。ぜひgoogleに[Uzukuri Puzzle]と入力し検索してみてください。同商品は、2023年11月に日本ウッドデザイン賞を受賞いたしました。私が、これまでデザインしてきた商品は、福祉に関するものが比較的多いように思います。

さて、本題に入っていくかと思いますが、企業や自治体の皆さんと打ち合わせの中で「ストーリーを描くのが苦手。」「商品のストーリーをしっかり伝えて付加価値を作りたい。」などのように物理的な「モノ」だけではなく、物理的なモノを通じて受ける体験やサービスを含む「コト」の視点を非常に大事にされているのだと感じます。なぜ、デザイン研究室に来てそのような話になるのかというと、現在のデザインに期待される役割には、「モノ」だけではなく「仕組み」や「コト」、つまり色や形を考えることだけではなく、それらを通じて感動を創造し、総体としてのデザインによってかたちづくるが必要とされているのではと感じます。

本誌をご購読の皆さんの中にも「モノからコトへ」などのフレーズを見聞きしたことがあるのではないのでしょうか。日本国内に生活必需品から家具や電化製品までありとあらゆる商品が溢れ、普及し尽くし、次第に車や高級品、ブランド品などへ消費者の消費行動が変容したのが1990年代前後（バブル景気の頃）といわれています。バブルが崩壊し、1990年代後半から物理的な「モノ」から、さまざまな体験やサービスを通じて得られる「コト」へと消費者の消費行動が本格化したといわれています。その過程で、「モノからコトへ」という言葉が生まれ、多くの企業が広告宣伝において、自社商品の具体的な強みをプロモーションするのではなく、その商品を使用することにより得られる体験をイメージさせるような演出の商業や新聞広告を出すようになりました。徐々に、行政や中小企業にもこの考え方が広く浸透しました。このような動きから「モノ」から「コト」へと重点を移した事業戦略を立てるようになり、特に林業や木材加工業などの木という生命に関わる業界にとっては、格好のキャッチコピーとなりました。

一方で「モノからコトへ」という言葉を都合の良いように解釈している企業や団体も少なからず存在します。「モノ」が売れなかったのは、「コト」を伝えられていなかったからではないかと。得てして、そのような場合は、「モノ」そのものに問題があることがあります。「モノ」と「コト」は、それぞれ存在しているのではなく、「コト」の中に「モノ」が含まれている状態をイメージしていただければよいのではないのでしょうか。「モノ」が消費者に満足されるレベルに至っていないのであれば、どんなに素晴らしいストーリーを書き上げ、良さを伝えようとも、空虚なものとなってしまいます。逆もまた然りです。

さて、「モノ」「コト」となり久しいですが、2017年に次に来るものとして「トキ（消費）」が博報堂生活総合研究所で発表されました。「トキ消費」は、スマートフォンとSNSが浸透した現在、広がりつつある新しい消費スタイルであり、3つの特徴があるとされています。①再現性：そのときを逃すと同じ盛り上がりや感動を二度と得られない体験 ②参加性：同じ趣味嗜好を持つ人たちが集まって盛り上げる場を、単なる来場者や傍観者として消費するのではなく主体的に参加すること ③貢献性：集まりやイベントに対して、各参加者が盛り上げに貢献している自覚を持てること（NTTコムウェアより引用）、とされています。

わたしたちの消費行動から、さまざまなフレーズが誕生しますが、木と関わる産業、企業や団体、自治体の皆さんには、木の命をいただく覚悟を持って、木としての命をいただき、その木として生きた分だけ、次の「モノ」としての長い命を授けられるような商品、サービスを命に敬意をもって引き続きつくりあげてほしいなと思います。



馬場 拓也 アーティスト/デザイナー *Takuya Baba*

国立大学法人北海道教育大学旭川校
芸術・保健体育専攻 美術分野デザイン講師
国立大学法人弘前大学教育学部非常勤講師
森の輪プロジェクト代表

Award

Creative Toys International Competition Award,
iF DESIGN AWARD、キッズデザイン賞、
ウッドデザイン賞'19'20'23、グッド・トイ賞、新制作協会新作家賞

山を育てる 仲間たち



#014 置戸町林業グループ

OKETO-CHO RINGYOU GROUP

町の約85%が森林で、林業で繁栄した歴史を持つ置戸町の林業グループ。60年前に発足した川南と45年前に発足した豊住の2つの林業グループが平成29年に統合し、改めて活動を始動。現在の会員は15名で、うち2名が北海道指導林家。



中学校の体験学習では林業就業者輩出の実績。 ドイツで技術を学び、向学心も活動を後押し。

現場感ある体験学習で 林業への興味を喚起

後継者問題は全国の林業グループの課題ですが、置戸町林業グループでは15年にわたって継続している置戸中学校での林業体験学習で具体的な効果を上げています。

スタートは同中学校から職業体験学習先として依頼のあった平成23年。学校側と連携して事前に森林の働きや森林と川の関係について学習してもらい、当日は1時間半で目標1人100本以上という本格的な植樹を指導します。現場の声を生で聞きたいとの声に応じて、地元林業会社の社員を招いて質疑応答を実施。事前学習で質問内容をあらかじめ考えてもらうことで、生徒全員が質問できるようにしてい



ます。造材現場の見学では、高性能林業機械の試乗も体験。山づくりを身近に感じ、理解を深められる職業体験になるよう工夫を重めています。また、毎回最後には「気軽に捨てられているティッシュペーパーや紙はすべて木材から作られていて、その木材には山を育てた人の思いが詰まっています」と話し、山づくりと木の大切さを伝えてきました。

努力のかいあって、これまでに卒業生2名が近隣の森林組合に就職。直接の就業に結びつかなくても、体験をきっかけに生徒が山に興味を持ち「親や祖父の持つ山と一緒に行ってみたい」と言い始めるなど、置戸町の林業の底上げにも貢献しています。

将来木施業に着手し、 息の長い活動を継続

44~80歳の会員たちはベテランながらも向学心にあふれ、視察研修にも積極的です。令和元年には林業の先進国であるドイツの視察。帰国後、早速学んできた将来木施業を実施しました。

「失敗を恐れず、すぐに取り組むところが我がグループの良いところ」と森脇弘己会長。将来木施業では、一定エリアで最も良好な成長が期待できる木を「将来の木」と決め、質の高い大径木を目指します。今後は施業箇所の状況を確認しながら、間伐などを行う予定。「将来の木」の成長を楽しみに活動を続けていきます。



〈NPO法人 野付・エコ・ネットワーク〉では、多様な生物を育む野付湾・野付半島を未来へ手渡すため、湾への河川が走る別海・標津・中標津の周辺地域と連携して湿地の保全活動を行っています。

国立公園化を目指して環境保全地域の協働で命を育む森づくり

環境保全の体制づくり

独特の自然が多様な生命を育む日本最大の砂嘴、野付半島。北海道遺産やラムサール条約にも登録され、国内外の来訪者を魅了しています。

一方で、「道立自然公園に指定されていますが、今後も安定的に自然環境を保全・維持していくには大変脆弱な体制」と、野付半島ネイチャーセンター長でもある同法人の藤井薫会長。4年前に環境保全や資源の適正利用などに問題意識を持つ地域の有志が集まり、1年ほど定期的に意見交換をした結果、同法人の設立に至りました。

清掃活動で羅網ジカ減少

課題のひとつが、廃棄された漁網などが角に絡まって衰弱死する「羅網ジカ」です。同法人設立前から漂流物を取り去る浜辺清掃を実施しており、現在も問い合わせ・参加ともに最多の活動。エゾシカを助きたい気持ちをかたちにでき、実際に羅網ジカ減少という成果が得られている点がいかにつながっていると藤井会長は見ています。



この清掃活動をはじめ、観察会や講演会などの参加を機に入会した会員が多く、新入会は年間10名程度。会員でネイチャーガイドの佐々木紀嘉さんと鈴木貴也さんの功績も大きく、ツアーを通じて同法人の活動を紹介し、賛同者を増やしています。

地域に根を張る活動を

約2年半半の活動の中で最重要と位置付けているのが、農協・漁協との当幌川水系河畔林育成

の植樹。予定地面積の60%以上をカバーし、3年目で全域完了の見込みです。また、別の計画として計根別農協と離農地の植樹を行う協議を開始。基幹産業である酪農業・水産業との協働で、地元に活動の輪を広げています。

現在、野付半島・風蓮湖・根室半島は国立公園化の調整中で、同法人はこの動きを推進する立場。活動にもますます力が入ります。

NPO法人 野付・エコ・ネットワーク

正会員54名・賛助会員14名は12歳～76歳と幅広く、専任職員を置かず、役員間で業務分担して運営。今年にはアカアシギなど減少が心配される動植物の実態調査を計画中。

REPORT NUMBER 01



〈上札内緑の少年団〉は、中札内村の上札内小学校が山村留学制度を開始した令和3年に発足しました。「上札内冒険クラブ」の愛称で、地域の小学生から高校生までを対象として活動しています。



山村留学と同時に発足

「緑の少年団と山村留学は密接に関わっています。都会から来た児童が北海道を体感できる場づくりに取り組んでいます」と、同少年団顧問の菅原晴彦校長。同校児童には、ほかにコミュニティスクールなど自然体験の場が複数あり、充実した活動内容が山村留学の希望者を惹きつける要素となっています。これらの活動はすべて「上札内冒険クラブ」として行われて

「学び」の比重を強めて

きましたが、3年目の令和5年度は本来の「上札内冒険クラブ」である緑の少年団の活動をいったん整理。「自然を楽しむ」場から「自然を学ぶ」場へと捉え直し、主に2点の変更を加えました。ひとつは、今夏に国立公園の指定が予定されている日高山脈を学習テーマに加えたこと。昨年9月に行った札内川園地での

全校児童20名のうち道外から来た山村留学は11名。地元の子童に見慣れた自然が実は貴重な財産だと教えてくれる存在でもあり、「それが上札内緑の少年団の魅力」と菅原校長は話します。今後は、林業専門家である松原康時顧問の指導のもとで、枝打ちなどの育樹をはじめ森林教育の比重を高めていく予定です。

地元と道外の交流が魅力

状況を見ながら調整しているところです。

ふたつめは活動日の変更。対象に中高生を含むため、これまでの活動日は週末でしたが、休日には各家庭ごとに予定があり児童の全員参加が難しいことから、平日の授業や放課後の時間帯に変えました。そもそも発足の契機が山村留学制度であり、「まずは児童主体で」と菅原校長。中高生への対応は、参加状況を見ながら調整しているところです。

上札内緑の少年団

道内では平成27年(2015年)以来6年ぶりに新設されたフレッシュな緑の少年団。団員は上札内地区の小中高生で、活動に理解のある同地区在住者は誰でも会員になれる。

REPORT NUMBER 02



**全校児童参加型で自然を学ぶ
山村留学実施校の「冒険クラブ」**

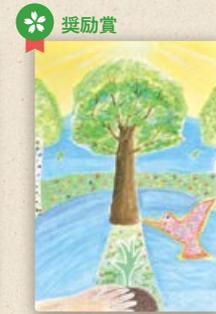


北海道内の小・中学生、高校生を対象に募集した
森林や緑に関する作品コンクールの
入賞者と作品の一部を紹介します。
たくさんの応募、ありがとうございました。

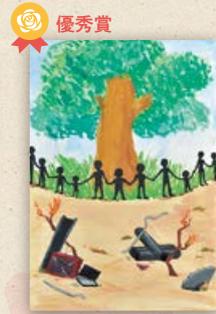
賞状の額は、北海道の木で作成したもので、
北海道森林組合連合会の提供によるものです。
(樹種/マカバ、ミズナラ 製作/下川フォレストファミリー(株))



小学校の部



中学校の部



高等学校の部



<p>小学校の部 優秀賞</p>	<p>中学校の部 優秀賞</p>	<p>高等学校の部 優秀賞</p>
<p>共和町立西陵小学校6年 佐々木乃愛さん 知内町立知内小学校5年 鎌田 佑菜さん 北見市立大正小学校1年 富樫 優杏さん</p>	<p>北広島市立広葉中学校3年 杉山 紗織さん 北見市立小泉中学校3年 栗生 紗さん 北見市立小泉中学校3年 越湖 てるさん</p>	<p>北海道富良野緑峰高等学校3年 川村 凛花さん</p>

当別町/5.30(火) NO.04 「お魚殖やす植樹運動」植樹会



【参加者】約80名
「百年かけて百年前の自然の浜を蘇らせよう」というスローガンのもと、北海道ぎょれん主催の植樹会が、当別町にある道民の森「水源の森」で開催されました。植樹運動を中心的に担う「浜のかあさん」方を中心に約80名が参加して、ミズナラやイタヤカエデなどの苗木を植樹しました。

石狩市・美深町・中川町/6.6(火)~9(金) NO.05 シンボルツリー植樹会



【参加者】4園、延べ241名
森林土木建設業協会のご支援により、石狩市・美深町・中川町のこども園など4園でシンボルツリー植樹会を開催しました。令和5年は、森の教室と併催したことから、園児たちは植樹の前に森の役割を楽しく学習。続いて、地域のシンボルとなるサクラやクワの苗木を植えました。

札幌市/10.7(土)~8(日) NO.06 レバンガ北海道2023-24開幕節「緑の募金」ブース



【ブース来訪者】約600名
当会と連携協定を締結したプロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」のホーム開幕節にて、think green! 緑の募金ブースを設置しました。ブースには北海道の木であるエゾマツやヤマモミジの大苗を配置し、多くの方に緑の大切さを伝え「緑の募金」の普及・啓発を行いました。

札幌市/10.22(日) NO.07 道民森づくりの集い2023「緑の募金」ブース



【参加者】482名
サッポロさとらんどを会場に森や木の大切さを啓発する道民森づくりの集い2023にて「緑の募金」ブースを設置しました。また、令和5年は北海道植樹の日・育樹の日条例制定5周年の節目を迎えたことを契機に、北海道知事により「道民ひとり1本植樹・育樹運動」の開始が宣言されました。

緑化活動啓発作品 コンクール入賞者

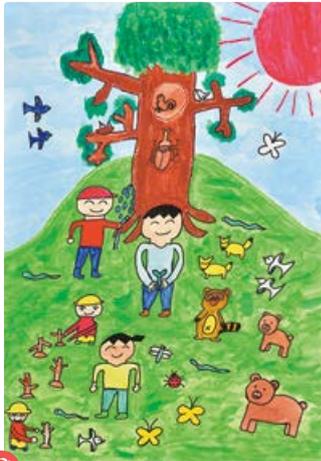
令和
5年度

ポスター部門
応募総数
127作品

標語部門
応募総数
437作品

ポスター部門

「緑とたくさんの生き物たち」



共和町立西陵小学校6年 伊藤 真拓さん



小学校の部 最優秀賞
北海道知事賞

「きらめく」



恵庭市立恵明中学校3年 佐藤 麻莉菜さん



中学校の部 最優秀賞
北海道教育長賞

「私の願」



北海道旭川農業高等学校3年 齊藤 幸音さん



高等学校の部 最優秀賞
北海道森林組合連合会会長賞

標語部門

北海道知事賞
標語の部 最優秀賞

澄んだ空
緑あふれる
エコの国

芦別市立啓成中学校1年 島倉 志穂さん



標語の部 優秀賞

広げよう
人と緑の
結びつき

深川西高等学校1年 ギミレ・アンジュさん



標語の部 優秀賞

繋げよう
この“森”未来に
いつまでも

白糠町立茶路小中学校 中学1年 對木 亜香さん



令和5年度 北海道森と緑の会 活動報告

Morimido Report

森と緑の会では、「緑の募金」運動として募金活動や普及・啓発活動のほか、皆様から寄せられた「緑の募金」や企業からの寄附金などを活用して、道内各地で森づくり、緑化活動、木育ひろば、森林ボランティアの活動支援などを行っていますので、その一部を報告します。関係者の皆様のご協力に感謝いたします。

札幌市/4.15(土)~16(日)

NO.01

「環境広場ほっかいどう2023」木育ひろば



【参加者】延べ56,199名

G7札幌 気候・エネルギー環境大臣会合の開催を記念してさっぽろドームで開催された環境広場ほっかいどう2023に、林業協会・木材産業協同組合連合会と合同で木育ひろばを出展。「緑の募金」「HOKKAIDO WOOD」をPRし、木の良さを体感できる木育ワークショップを行いました。

当別町/5.26(金)

NO.02

発寒ひかり保育園植樹会



【参加者】28名

発寒ひかり保育園の園児たちが、当別町にある道民の森「水源の森」で植樹会を行いました。苗木には、早く周りの森と調和するように、地域に自生している樹木と同じ種類のミズナラやシラカバなどを選定。道民の森ボランティア協会の植樹指導のもと、100本の苗木を元気に植えました。

厚真町/5.28(日)

NO.03

第73回北海道植樹祭



【参加者】約790名

胆振東部地震から5年目を迎える被災地域の厚真町にて第73回北海道植樹祭を開催し、北海道知事をはじめ、被災地域の子もたちや道民の皆様のほか、レバンガ北海道の選手たちにもご参加いただきました。催事として木育ひろばを出展し、多くの方に「緑の募金」をPRしました。



緑の募金インフォメーション

INFORMATION
2024

「緑の募金」運動とは

「緑の募金」運動は、「緑の募金」への寄附を呼びかけることにより、森林や木材、身近な緑環境の大切さを普及・啓発するとともに、集まった寄附金を基に、募金を集めていただいた市町村や協力団体が実施する緑化事業の支援(65%を還元)、緑化事業に取り組むボランティア団体への助成、小・中・高等学校の児童・生徒による緑化活動啓発作品コンクール、様々なイベントにおいてワークショップを行う「木育ひろば」の出展、幼稚園などに出向いて森の大切さを伝える「森の教室」や園児達の植樹体験などに取り組んでいます。

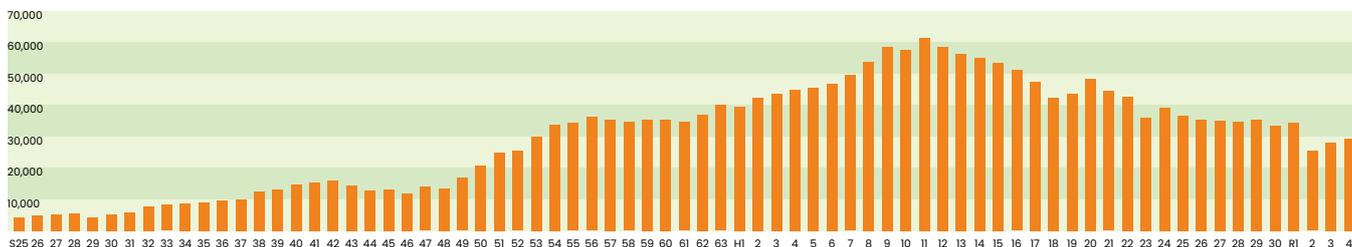
「緑の募金」の仕組み



「緑の募金」の歴史

1950年(昭和25年)	「北海道緑化推進委員会」を設立、「緑の羽根募金運動」を開始 山梨県で第1回全国植樹祭を実施、天皇后両陛下が「緑の羽根」を胸に付けられご臨席 北海道では、藻岩山山麓国有林にて第1回北海道植樹祭を実施
1954年(昭和29年)	「北海道国土緑化推進委員会」に名称変更
1961年(昭和36年)	第12回全国植樹祭を支笏湖畔モーラップで実施、天皇后両陛下がご臨席
1963年(昭和38年)	緑の羽根募金1千万円を突破(11,890千円)
1968年(昭和43年)	「社団法人 北海道国土緑化推進委員会」として法人認可
1975年(昭和50年)	緑の羽根募金2千万円を突破(20,177千円)
1977年(昭和52年)	大分県で第1回全国育樹祭を実施、皇族殿下がご臨席
1979年(昭和54年)	緑の羽根募金3千万円を突破(33,352千円)
1987年(昭和62年)	第11回全国育樹祭を支笏湖班モーラップ・野幌森林公園で実施、皇太子殿下がご臨席
1990年(平成2年)	緑の羽根募金4千万円を突破(42,337千円)
1995年(平成7年)	「緑の募金法」制定、「緑の羽根募金」から「緑の募金」へ、法に基づく指定公益法人に認定
1996年(平成8年)	緑の募金5千万円を突破(53,673千円)
1999年(平成11年)	緑の募金6千万円を突破(61,382千円)
2003年(平成15年)	「社団法人 北海道森と緑の会」に名称変更
2005年(平成17年)	緑の募金5千万円を割り込む(46,992千円)
2007年(平成19年)	第58回全国植樹祭を苫小牧市で実施、天皇后両陛下がご臨席
2010年(平成22年)	「公益社団法人 北海道森と緑の会」へ移行
2011年(平成23年)	緑の募金4千万円を割り込む(35,753千円)
2020年(令和2年)	コロナ禍により緑の募金3千万円を割り込む(25,291千円)
2021年(令和3年)	第44回全国育樹祭を苫小牧市で実施、皇嗣殿下がオンラインでご臨席

「緑の募金」実績額の推移(北海道)



「緑の募金」の使われ方

皆さまの思いと心のこもった貴重な募金は、市町村緑化推進委員会等や募金協力団体に65%を還元し、それぞれの地域における森林の整備、公園・街路や学校の緑化などの事業を中心に使われているほか、当会直接事業として、各種イベントでの「木育ひろば」や「森の教室」、緑化活動啓発作品コンクールの実施などに、大切に活用しました。

募金の使途

令和4年度 募金総額 **29,333,756円**

市町村等緑化事業助成	12,430,299円	市町村等の緑化活動に助成	128団体
募金協力団体緑化事業	1,569,392円	募金協力団体への緑化活動に助成	14団体
一般公募事業	1,396,647円	ボランティア団体等の緑化事業に助成	30団体
国土緑化推進機構負担金	846,000円	東日本大震災、胆振東部地震復興事業等に活用	
森と緑の会直接事業	5,032,409円	木育ひろば、森の教室等	
緑の募金推進活動費	7,772,977円	募金PR活動、緑化啓発作品コンクール、募金資材等	
指定正味財産へ繰入	481,730円		

税制上の優遇措置 森と緑の会への寄附は、その全額を公益目的事業に充てるため、「特定公益増進法人」に対する寄附として、税制上の優遇措置が受けられます。

(01) 法人の場合

一般の寄附とは別枠で、「法人税」での損金算入をすることができます。

- ① 特別損金算入限度額=(資本金等の金額×0.375%+所得金額×6.25%)×1/2
 - ② 一般寄附算入限度額=(資本金等の金額×0.250%+所得金額×2.50%)×1/4
- ①と②の限度額(合計)までの寄附金額の損金算入が可能です。

(02) 個人の場合

寄附金が2千円を超える場合、確定申告をすることによって、所得税の「寄附金控除」および住民税の「寄附金税額控除」の対象となります。

※個人住民税は、都道府県及び市町村が条例で指定している寄附金が控除の対象となります。北海道は当会に対する寄附金を条例指定しています。市町村については、お住まいの市町村又は当会にお問合せください。

顕彰制度

一定額以上のご寄附をいただいた場合、次の贈呈基準に基づき、寄附金の額に応じて農林水産大臣、林野庁長官、国土緑化推進機構理事長及び北海道森と緑の会理事長からの感謝状を贈呈させていただきます。

区分	農林水産大臣感謝状	林野庁長官感謝状	国土緑化推進機構理事長感謝状	北海道森と緑の会理事長感謝状
個人	500万円以上	100万円以上／500万円未満	30万円以上／100万円未満	5万円以上／30万円未満
団体	1,000万円以上	200万円以上／1,000万円未満	50万円以上／200万円未満	10万円以上／50万円未満

いろいろな方法で「緑の募金」にご協力いただけます

- 募金箱へ** 街頭で実施している募金活動や店頭などに設置している募金箱へ直接寄附
- 受入口座へ** 郵便振替口座、北洋銀行、北海道銀行などの受入口座へ直接寄附
- スマホで** SoftBank「つながる募金」、J-coinPay「ぼちっと募金」で直接寄附
- 古本で** 読み終えた本や音楽CD、DVDを、DVDをご寄贈いただければ、ブックオフの買取金額が募金
- お宝で** ご家庭に眠る「お宝」をお宝エイド受付センターに着払いで送り、その買取金額が募金
- 協賛商品の購入で** 「RITARU COFFEE」での協賛商品や緑の募金マークの付いた自販機の売上の一部が募金

古本で募金

読み終えた本や音楽CD、DVDをご寄贈ください。ブックオフの買取金額が募金となります。Web又はFAXでお申し込みいただくと、宅配業者が集荷に伺います。



お宝で募金

ご家庭に眠る「お宝」をお宝エイド受付センターに着払いでお送りいただき、その買取金額が募金となります。専用ゆうパック伝票は当会にご請求下さい。



珈琲で募金

RITARU COFFEEのコーヒー豆や新発売のコーヒーゼリーの売上の一部が緑の募金に寄附されます。オンラインショップのほか、「北大マルシェ」や「きたキッチン」で販売。



自販機で募金

緑の募金マークのついた自販機は売上げの一部が募金になります。大漁旗のマークは「お魚殖やす植樹運動」の用途限定募金です。



SoftBank (つながる募金)

スマホ・パソコンから簡単に寄附ができます。100円から気軽に寄附ができます。



J-coinPay (ぼちっと募金)

スマホから専用アプリをダウンロードして簡単に寄附ができます。100円から気軽に寄附ができます。



「緑の募金」受入口座

- 郵便振替／02710-3-72100
- 北洋銀行 札幌駅南口支店(普通)／0896782
- 北海道銀行 本店営業部(普通)／2389207
- 三菱UFJ銀行 札幌支店(普通)／4494483
- 大地みらい信用金庫 札幌支店(普通)／0002772
- みずほ銀行 札幌支店(普通)／3201441
- 北海道信用漁業協同組合連合会 本店(普通)／4080837

令和5年 緑の募金協力者 50音順/敬称略

※令和5年1月～12月にご寄附をいただいたものを掲載しております。
 ※各市町村等を通じてご寄附いただいたものは「各市町村緑化推進委員会等」に包括しております。

企業・団体名	所在地	企業・団体名	所在地	企業・団体名	所在地
協同組合アースグローイング	岩見沢市	札幌ライオンズクラブ	札幌市	ボーイスカウト北海道連盟札幌地区	札幌市
愛別町森林組合	愛別町	札幌電谷学園高等学校	札幌市	北栄測量設計(株)	函館市
赤坂木材(株)	北見市	(社)札幌林業土木協会	札幌市	ホクサン(株)	北広島市
阿寒総合林業協同組合	釧路市	(社)札幌林業協会	札幌市	北星信用金庫	名寄市
旭川森林ボランティア倶楽部	旭川市	札幌ロータリークラブ	札幌市	ほくてんWEBポイントサービス(ロウタス(株))	札幌市
旭川地方木材協会	旭川市	(株)サトウ	帯広市	(株)北都	釧路市
(社)旭川林業土木協会	旭川市	佐藤林業(株)	北見市	(株)ホクミコンサル	札幌市
旭川林窓会	旭川市	里見緑地を守る会・どんぐり	北広島市	細畑 利典	厚沢部町
旭産業(有)	赤平市	更別村農業協同組合	更別村	(株)細畑林業	厚沢部町
厚岸木材工業(株)	厚岸町	NPO法人沙流川愛クラブ	平取町	北海道釧路北陽高等学校	釧路市
(株)アドバコム	札幌市	サントリービバレッジリユージョン(株)	北見市	北海道指導林家連絡協議会	札幌市
安藤山林緑化(株)	中富良野町	三美鉱業(株)	美瑛市	NPO法人北海道市民環境ネットワーク	札幌市
(有)安藤苗圃	上富良野町	NPO法人シーズネット	札幌市	北海道信用金庫	札幌市
石狩市森林組合	石狩市	標茶町森林組合	標茶町	北海道信用保証協会	札幌市
石狩漁業協同組合	石狩市	下川林産協同組合	下川町	北海道森林林産連合会	札幌市
(有)石田農園	長沼町	(有)樹業種苗	北見市	北海道森林土木設計協会	札幌市
(株)伊藤園	札幌市	(有)真貝木工	滝上町	北海道産商生活衛生同業組合	札幌市
伊藤組土建(株)	札幌市	新得町農業協同組合	新得町	道総研 林業試験場・林産試験場	美瑛市・旭川市
井上産業(株)	遠軽町	新函館農業協同組合	北斗市	北海道道路整備(株)	帯広市
井原林産(株)	帯広市	森林整備センター北海道水源林整備事務所	札幌市	北海道ニッタ(株)	幕別町
今井林業(株)	弟子屈町	森林総合研究所北海道支所	札幌市	北海道農業協同組合学校	江別市
岩倉建設(株)	札幌市	森林総合研究所林木育種センター北海道育種場	江別市	北海道福祉・保育大	札幌市
(株)イワクラ	苫小牧市	(株)菅原緑	函館市	北海道木材市場協同組合	札幌市
イワフジ工業(株)札幌支店	札幌市	菅原 俊宏	蘭越町	北海道林業グループ協議会	札幌市
協同組合ウッドハウスおけと	札幌市	鈴木 里花	埼玉県草加市	北海道林業普及懇話会	札幌市
浦幌林産協同組合	浦幌町	(株)澄川工作所	北広島市	(社)北海道林産技術普及協会	旭川市
Aコープチェーン北海道4地区ブロック	浦幌町	(有)晴耕園苗畑	音更町	(株)ホリタ	広尾町
枝幸漁業協同組合	枝幸町	そらち森林組合	新十津川町	(財)前田一歩園財団	釧路市
(株)エスシアベックス	札幌市	ダイドードリンコ(株)	札幌市	牧野苗畑	北斗市
Sタウン町内会	札幌市	高坂林業(株)	白糠町	丸善木材(株)	釧路町
江本木材産業(株)	滝上町	滝上林業協同組合	滝上町	三浦組木材工業(株)	留寿都村
遠軽信用金庫	遠軽町	(有)竹内山林緑化農園	美瑛町	(株)三浦興産	新ひだか町
王子フォレストリー(株)	日高町	(有)館坂事業所	厚沢部町	みつし農業協同組合	新ひだか町
(有)大坂林業	幕別町	(有)谷口精光園	北斗市	三津橋産業(株)	士別市
大澤木材(株)	釧路市	民安ダム「サクラの森づくりの会」	天塩町	南茅部林産協同組合	函館市
(株)オカモト	帯広市	千歳林業(株)	倶知安町	(有)南山林種苗農園	北斗市
渡島森づくり事業協同組合	函館市	月形町農業協同組合	月形町	南しりべし森林組合	蘭越町
音威子府村企業協同組合	音威子府村	辻木材(株)	赤井川村	南宗谷森林組合	枝幸町
落部漁業協同組合	八雲町	てしお森遊会	天塩町	南北北海道林業総合事業協同組合	江差町
音更町農業協同組合	音更町	道東あさひ農業協同組合	別海町	峰延農業協同組合	美瑛市
帯広の森サポーターの会	帯広市	東邦木材工業(株)	士別市	(有)民有林新聞	札幌市
オホーツクはまなす農業協同組合	紋別市	道北名寄農業協同組合	名寄市	村金拓殖(株)	枝幸町
オムニス林産協同組合	幕別町	道路工業(株)	札幌市	NPO法人藻岩山さきご観察会	札幌市
ガールスカウト札幌地区協議会	札幌市	十勝広域森林組合	芽室町	紋別漁業協同組合	紋別市
(株)カネヨ木材	中標津町	十勝清水農業協同組合	清水町	(株)矢口産業	紋別市
蛾眉野林産協同組合	函館市	十勝林産協同組合	音更町	山崎製パン(株)	恵庭市
協同組合上川中森林整備事業協同組合	東川町	(株)トベックス	小樽市	(株)山本ビル	旭川市
河野行則	江別市	トヨタモビリティパーツ(株)	札幌市	羊蹄林産協同組合	蘭越町
間伐ボランティア札幌ウッドーズ	札幌市	豊富猿払森林組合	豊富町	横内林業(株)	中標津町
日本国木材(株)	旭川市	中標津町森林組合	中標津町	横内林業(株)紋別事業所	紋別市
北見地方木材協会	北見市	(有)中標津乳販	中標津町	(株)ヨシダ	苫小牧市
北見地方木材協同組合連合会	北見市	長沼山岳会	長沼町	吉田学園公務員法科専門学校	札幌市
北見森づくり協同組合	北見市	(株)中山組	札幌市	(株)よつばフォレスト	稚内市
木下林業(株)	浦幌町	西川マザーウッズ	新ひだか町	(株)ラムダ	東京都
木の芽書房	札幌市	西十勝森林組合	新得町	陸上自衛隊札幌駐屯地	札幌市
旭東林産協同組合	東川町	ニッセイの森友の会	札幌市	陸上自衛隊丘珠駐屯地	札幌市
キンビバレッジ(株)	札幌市	にれのき会	札幌市	(株)リタル	札幌市
釧路丹頂農業協同組合	鶴居村	ノースジャスト(株)	紋別市	リバーネット21がぬま・長沼緑の少年団	長沼町
釧路テューリップフェア実行委員会	釧路市	野幌森クラブ	札幌市	(有)リョクシン	幕別町
靴のタイラ 平悦子	室蘭市	(株)ノムラ	旭川市	留萌地方林業協同組合	留萌市
厚浜木材加工協同組合	浜中町	函館地方国有林退職者緑の募金推進団体	函館市	留萌南部森林組合	留萌市
興雄地区森林育成協同組合	興部町	晶山 透	網走市	留萌北部森林組合	天塩町
小清水町農業協同組合	小清水町	美瑛町森林組合	美瑛町	(株)レバンガ北海道	札幌市
(株)ササモリ	室蘭市	美瑛町農業協同組合	美瑛町	(一社)北海道森林土木建設業協会・会員企業	全道
札幌緑南ロータリークラブ	札幌市	東胆振森づくり協同組合	美瑛町	北海道開発局・各開発建設部	全道
札幌市立駒岡小学校緑の少年団	札幌市	日高東部森林組合	苫小牧市	北海道農政事務所・各地域拠点	全道
札幌商工会議所付属専門学校	札幌市	美瑛市農業協同組合	美瑛市	北海道森林管理署・各森林管理署	全道
札幌静修高等学校	札幌市	美深林産協同組合	美深町	北海道庁各務・各振興局	全道
札幌トヨタ自動車(株)	札幌市	プログレッソ十勝FC	帯広市	北海道教育庁各務・各教育局	全道
札幌モーニングロータリークラブ	札幌市	(株)ペットブラン	札幌市	北海道警察各務・各方面本部・各警察署	全道
				各市町村緑化推進委員会等	全道



緑の栄光 No.71 2024年3月10日発行

発行/公益社団法人北海道森と緑の会
 〒060-0004
 札幌市中央区北4条西5丁目1番地 林業会館3階
 TEL.011-261-9022 FAX.011-261-9032
 URL / https://www.h-green.or.jp/
 MAIL / morimidorori@h-green.or.jp

編集後記

「緑の募金」は、戦後間もない昭和25年に「緑の羽根募金運動」として始まり、今年で75年が経ちます。この間、50年が経過した平成11年には募金額が6千万円を超えピークを迎えましたが、その後は右肩下がりとなり、近年は、コロナ禍もあり令和2年には3千万円を割り込んでいます。「緑の募金」運動は、一般住民の方々へ寄附を呼びかけることにより、森林や木材、緑環境の大切さを普及・啓蒙するとともに、集まった寄附金を活用して森林や身近な緑環境の整備に取り組む、北海道の森林環境等を下支える運動ですので、皆様のご協力をお願いします。

お忙しい中、玉稿をお寄せいただいた駒岡小学校 岩村様、北海道教育大学 馬場様、その他取材にご協力をいただきました皆様、誠にありがとうございました。今回も皆様のご協力により「みどりのGift」を発行することが出来ました。

北海道森と緑の会は、多くの道民や企業・団体の皆様に支えられて「緑の募金」を始めとした緑化運動を進めております。今後もご支援をよろしくお願いいたします。(T.A)

